

脳卒中及び急性心筋梗塞に係る医療連携体制の進行管理・評価の概要 (令和元年度分)

1 進行管理・評価の趣旨

脳卒中、急性心筋梗塞の患者の状況や医療連携体制等について進行管理・評価を行い、医療連携の円滑な推進を図る。

平成22年度から脳卒中、平成23年度からは急性心筋梗塞について、それぞれ毎年度実施しているものである。

2 進行管理・評価の方法

脳卒中及び急性心筋梗塞等について県内で統一した指標(11項目)を設け、二次保健医療圏ごとに進行管理・評価を行う。指標に係るデータは、医療機関への調査や関係各課からの情報提供等により把握する。

3 概要

- 医療連携への参加機関数については、平成30年度の参加医療機関の再調査時に脳卒中、急性心筋梗塞共に大幅に減少しているが、令和元年度の脳卒中の参加医療機関は前年度より2機関の増、急性心筋梗塞の参加医療機関は3機関の増となっている。
- 脳卒中連携パス使用率は、平成25年度の36.4%をピークに30%台で推移していたが、平成30年度は25.8%、令和元年度は25.2%と減少傾向である。圏域ごとに見ると、使用率が約80%である圏域がある一方、全く使用されていない圏域もあり、使用状況に大きな差がみられる。
- 急性心筋梗塞連携パスの運用は前年度より1圏域(始良・伊佐)増となったが、2圏域の運用にとどまっている。
- 令和元年度のt-PAによる脳血栓溶解療法の治療実施率は6.1%と近年では最も高くなっている。治療実施率は、4~6%台で推移している。
- 心臓カテーテルの実施患者数は前年度より増加した。実施率は、約70~80%で推移している。
- 今後も、速やかに専門的な治療ができる体制構築の促進や、連携パス等を含めた医療連携の効果的な手段等を関係機関において協議・検証しながら、医療連携推進体制の充実に努める必要がある。

脳卒中及び急性心筋梗塞に係る 医療連携体制の進行管理・評価の概要

令和3年2月

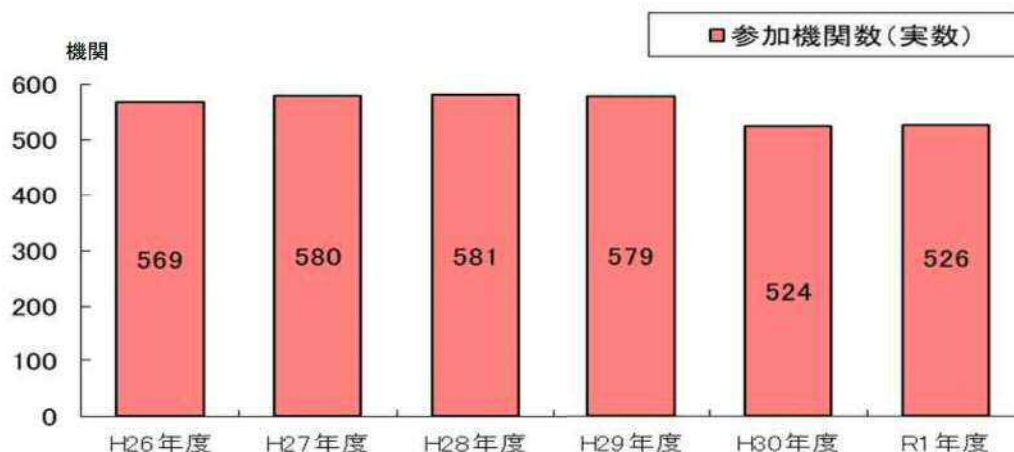
鹿児島県 保健医療福祉課

1

脳卒中における医療連携の状況(1)

脳卒中医療連携体制への参加医療機関数(県全体)

- 平成21年度までに県全域で体制を構築し、医療機能別の医療機関名を県ホームページで公表している。
- 平成30年度は保健医療計画を見直しに合わせ、参加医療機関数の再調査を行ったことにより、55医療機関が辞退し、大きく減少となった。
- 令和元年度の参加医療機関は526機関となっている(前年度より微増あり)。

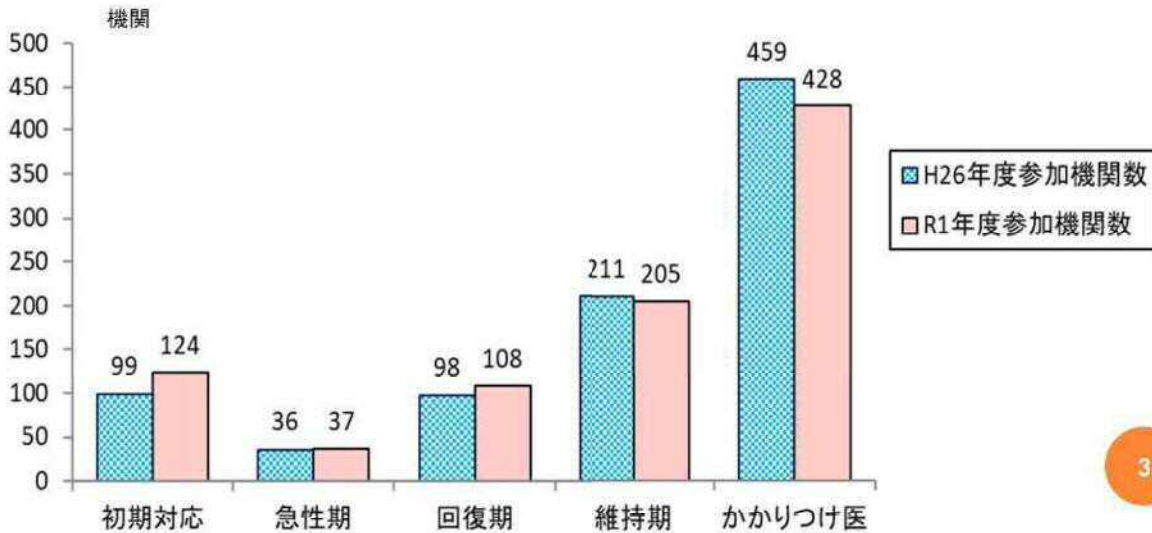


2

脳卒中における医療連携の状況(2)

脳卒中医療連携体制への参加医療機関数(県全体, 医療機能別)

- 初期対応・急性期・回復期において, 参加機関数が増加しているが, 維持期・かかりつけ医は減少している。



※ 1ヶ所で複数の機能を有する機関あり。

3

脳卒中における医療連携の状況(3)

参加医療機関のうち, 急性期医療機関における患者の状況と医療連携パスの運用に関する調査

県内37医療機関中, 回答率100%

報告様式

(脳卒中 様式1 : 急性期医療施設記載)

記入者	
所属	
氏名	
電話番号	
t-PA対応体制の有無	あり・なし

「脳卒中」入院患者及び地域医療連携パス運用における状況調査(調査対象期間:平成31年4月1日～令和2年3月31日)

項目	A 脳卒中中で入院した患者数(人)		
	(a) うち脳梗塞で入院した患者数(人)	(b) (a)のうちt-PA治療患者数(人)	
圏域内急性期医療施設名			

項目	B 脳卒中中で退院した患者数(人)					(参考)
	(c) 医療機関・老人保健施設に転院した患者数(人)	(d) 在宅等生活の場へ復帰した患者数(人)	(e) 死亡退院患者数(人)	(f) Bのうち何らかの形で医療情報の提供を行った患者数(人)	(g) (f)のうち、圏域内の地域連携パスを使用した件数(人)	
圏域内急性期医療施設名						(d)のうち、自院で在宅療養(外来治療)を継続する者
	0					

脳卒中における医療連携の状況(4)

急性期医療機関に入院した脳卒中患者数に占める脳梗塞患者の割合

- 令和元年度の脳卒中患者全体に占める脳梗塞患者の占める割合は、約72%となっている。

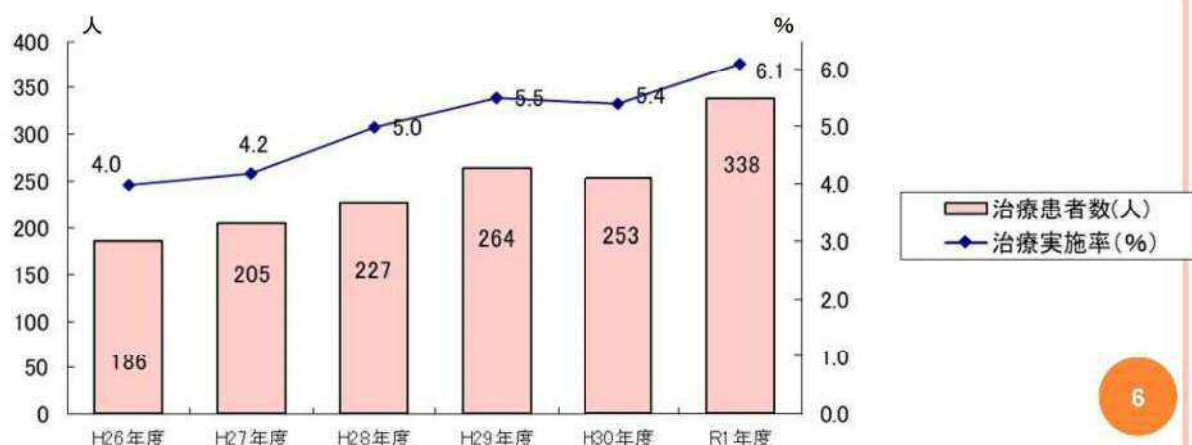


5

脳卒中における医療連携の状況(5)

急性期医療機関におけるt-PA治療患者数

- 令和元年度のt-PA治療患者数は過去5年間の中で最も多く、治療実施率についても、6.1%と過去5年間と比較して最も高くなっている。
- 治療実施率は4.0%～6.1%で推移している。



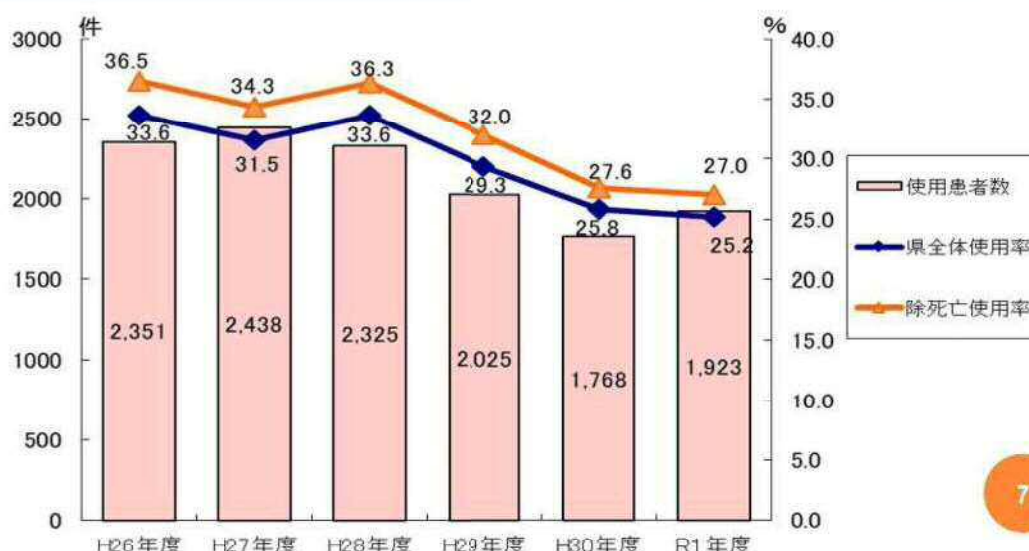
6

治療実施率: t-PA治療者数/脳梗塞患者数 × 100

脳卒中における医療連携の状況(6)

医療連携パスの使用状況(県全体)

- 令和元年度の医療連携パスの使用患者数及び使用率はともに前年度より減少し過去最低となった。



利用率:パス使用患者数/退院者数 (%)

7

脳卒中における医療連携の状況(7)

圏域ごとの医療連携パス利用状況

- 連携パスは、使用率が約80%の圏域がある一方、全く使用されていない圏域もあり、使用状況に大きな地域差が見られる。

圏域ごとの利用状況

利用率:パス使用患者数/退院者数 (%)

		鹿児島市	鹿児島	圏域計	南薩	川薩	出水	始良	曾於	肝属	熊毛	奄美
H26	利用率(全体)	24.9	59.2	30.3	49.1	65.3	79.7	0.0	0.0	49.4	18.9	0.0
	除死亡利用率	26.7	62.2	32.4	53.6	74.4	87.1	0.0	0.0	54.4	21.2	0.0
H27	利用率(全体)	26.3	60.6	31.2	53.7	76.3	50.4	0.0	0.0	52.0	22.2	0.0
	除死亡利用率	28.5	76.1	33.6	67.7	81.4	56.1	0.0	0.0	56.3	24.6	0.0
H28	利用率(全体)	31.4	51.1	34.5	42.7	78.1	62.3	2.0	0.0	57.3	29.3	0.0
	除死亡利用率	33.6	54.0	36.9	47.9	84.2	68.2	2.4	0.0	62.7	31.5	0.0
H29	利用率(全体)	27.1	0.0	23.8	32.1	91.6	81.6	0.1	0.0	56.5	26.3	0.0
	除死亡利用率	29.3	0.0	25.7	35.4	102.6	90.0	0.1	0.0	61.7	29.8	0.0
H30	利用率(全体)	22.1	0.0	18.7	10.0	93.9	74.2	0.0	0.0	60.3	24.3	0.0
	除死亡利用率	23.3	0.0	19.8	10.8	102.8	81.1	0.0	0.0	64.4	25.8	0.0
R1	利用率(全体)	27.1	0.0	24.2	7.0	69.2	77.0	5.1	0.0	54.9	8.7	0.0
	除死亡利用率	23.3	0.0	25.6	10.8	73.9	82.4	5.6	0.0	58.2	9.8	0.0

地域共通パス未利用地域における医療情報提供率* (令和元年度, %)

圏域	情報提供率
鹿児島 (日置・鹿児島郡)	80.7
曾於	33.7
奄美	65.5

情報提供率:何らかの形で医療情報の提供を行った患者数/退院者数 (%)

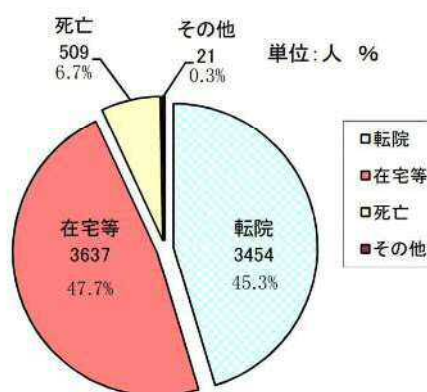
* 医療機関独自の様式による医療連携パス、診療情報提供書の活用等が考えられる。

8

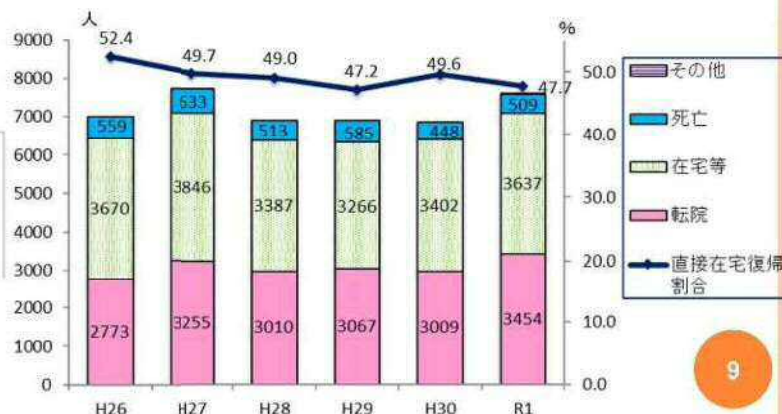
脳卒中における医療連携の状況(8) 急性期医療機関からの退院先

- 急性期医療機関からの退院先としては、直接在宅等への復帰と転院とでほぼ二分されるが、直接在宅等への復帰の割合が転院よりやや多い。

退院先の状況(令和元年度)

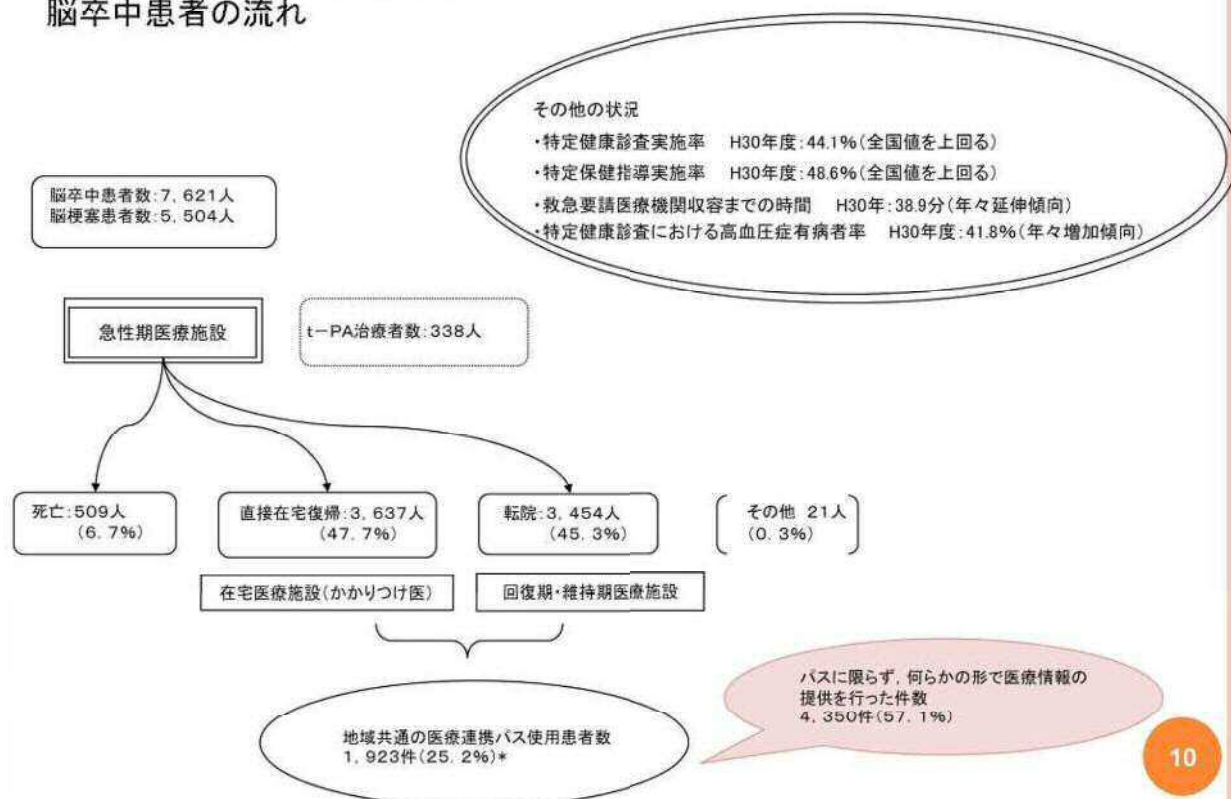


退院先の状況(平成26～令和元年度)



※転院: 医療機関, 介護老人保健施設 ※在宅等: 在宅ほか生活の場

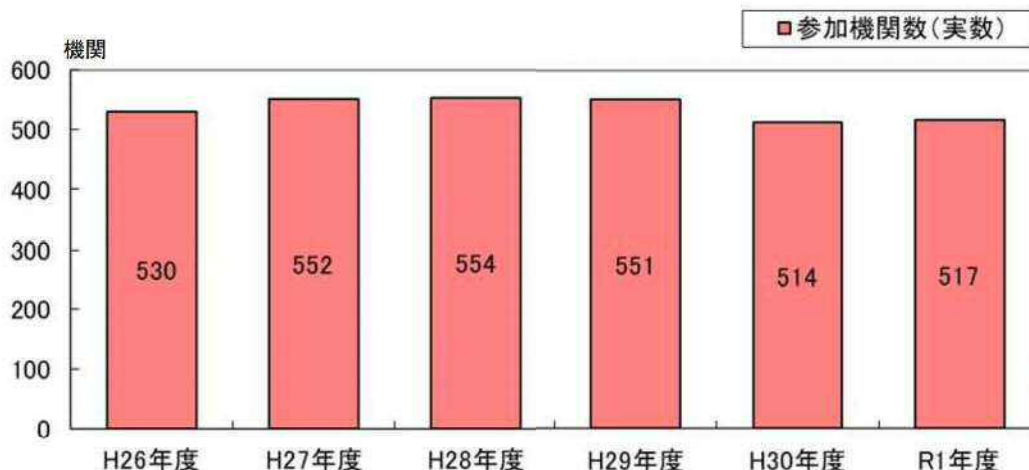
令和元年度の県全域における 脳卒中患者の流れ



急性心筋梗塞における医療連携の状況(1)

急性心筋梗塞医療連携体制への参加医療機関数(県全体)

- 平成23年度までに県下全地域で体制を構築し、医療機能別の医療機関名を県ホームページで公表している。
- 平成30年度は保健医療計画を見直しに合わせ、参加医療機関数の再調査を行ったことにより、37医療機関が辞退した。
- 令和元年度の参加医療機関は517医療機関となっている。

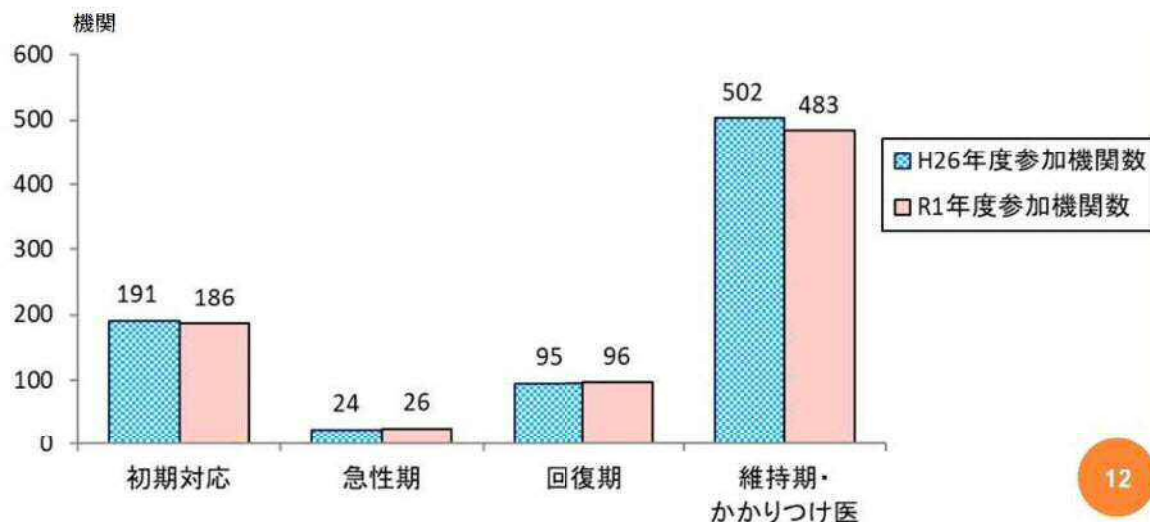


11

急性心筋梗塞における医療連携の状況(2)

急性心筋梗塞医療連携体制への参加医療機関数(県全体, 医療機能別)

- 全ての医療機能が横ばい又はやや減少傾向である。



12

※ 1ヶ所で複数の機能を有する機関あり。

急性心筋梗塞における医療連携の状況(3)

参加医療機関のうち、急性期医療機関における患者の状況と医療連携パスの運用に関する調査

県内25医療機関中、回答率 100%

報告様式

(急性心筋梗塞 様式1:急性期医療施設記載)

記入者	
所属	
氏名	
電話番号	
心臓カテーテル検査実施体制	あり ・ なし
経皮的冠動脈形成術実施体制	あり ・ なし
冠動脈血栓溶解術実施体制	あり ・ なし
冠動脈バイパス術実施体制	あり ・ なし

「急性心筋梗塞」入院患者及び地域医療連携パス運用における状況調査(調査対象期間:平成31年4月1日～令和2年3月31日)

項目	A 急性心筋梗塞で入院した患者数(人)				
	(a) Aのうち心臓カテーテル 実施患者数(人) ※カテーテル検査 のみ実施の方を含む	①(a)のうち経皮的冠動 脈形成術実施患者数(人)	②(a)のうち冠動脈血栓 溶解術実施患者数(人)	③(a)のうちカテーテル検査 のみ実施した患者数 (人)	
圏域内急性期 医療施設名					

項目	B 急性心筋梗塞で退院した患者数(人)					(参考)
	(b) Bの内訳			(c)	(d) (c)のうち 連携パス使用件 数	
	①医療機関・介護 老人保健施設 に転院した患者 数(人)	②在宅等生活の場 に復帰した患者数 (人)	③死亡退院患 者数 (人)	(b)①②のうち何 らかの形で医療 情報の提供を行 った患者数 (人)		(b)②のうち、自院で在宅 療養(外来治療)を継続 する者
圏域内急性期 医療施設名	0					

急性心筋梗塞における医療連携の状況(4)

急性期医療機関に入院した患者の状況(急性心筋梗塞)

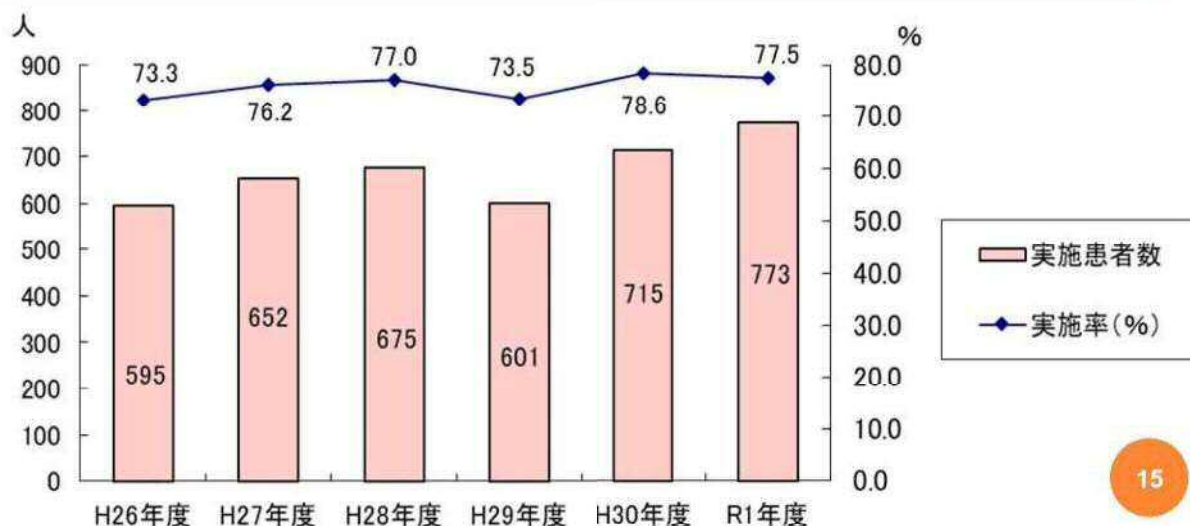
- H26年度以降、急性心筋梗塞による入院患者数は年々増加傾向である。



急性心筋梗塞における医療連携の状況(5)

急性期医療機関に入院した患者の状況(心臓カテーテル)

- 令和元年度の心臓カテーテル実施患者数は前年度より増加しているが、実施率は、前年度よりやや減少している。
- 平成26年度以降、急性心筋梗塞で入院した患者の70～80%に心臓カテーテルが実施されている。



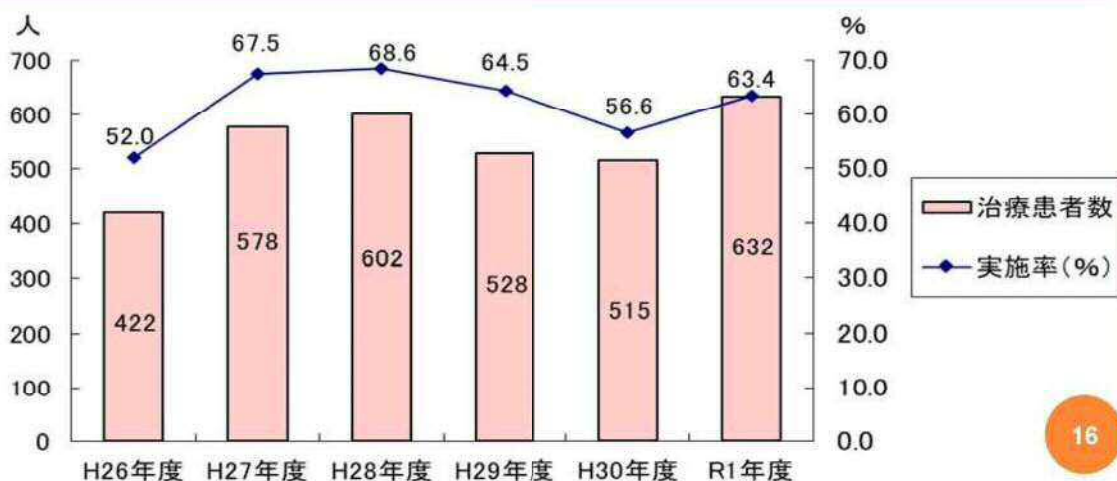
治療実施率: 心臓カテーテル実施患者数 / 急性心筋梗塞患者数 × 100

15

急性心筋梗塞における医療連携の状況(6)

急性期医療機関に入院した患者の状況(経皮的冠状動脈形成術)

- 経皮的冠状動脈形成術治療患者数, 治療実施率は, 平成30年度で大きく減少しているが, 全体として平成27年度(調査項目の基準を明確にした年度)から横ばいで推移している。
- 急性心筋梗塞で入院した6割近くの患者に経皮的冠状動脈形成術の治療が実施されている。



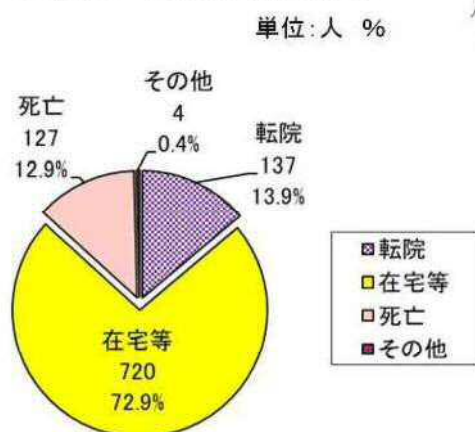
治療実施率: 経皮的冠状動脈形成術治療患者数 / 急性心筋梗塞患者数 × 100

16

急性心筋梗塞における医療連携の状況(7) 急性期医療機関からの退院先

- 急性期医療機関から直接自宅等への復帰が70%以上を占める。
転院は約14%である。

退院先の状況(令和元年度)



退院先の状況(平成26年～令和元年度)



令和元年度の県下全域における 急性心筋梗塞患者の流れ

